

下記の整備方針（たたき台）は、富士見台地域の魅力的な場所の価値を継承し、それらをさらにつなげて・ひろげるまちづくりを進めるためのものです。

整備方針（たたき台）

方針1 支え合いを育む居場所の充実を図る

- ①身近な居場所を多くの市民に活用してもらう
 - 既存の居場所の運営のひと工夫を通じて更なる利用の促進を図る
 - 既存の居場所の魅力や運営ノウハウを知り・学び、地域に広げる
 - 様々な居場所を積極的に広報する
 - 中高生から高齢者まで各世代が利用しやすい居場所の充実を図る
- ②既存の施設や店舗などの居場所機能の充実を図る
 - 公共施設をコミュニティづくりの場として活用の促進を図る
 - 団地を居場所として活用する
 - お店と居場所スペースの提供協力を推進する
- ③屋外空間を居場所として活用する
 - 道路や公園を居場所として活用する
 - ベンチの設置など交流を生むまちなかの休憩スポットを増やす
 - まちなかのどこでも居場所がつけられる工夫をする
- ④安心な生活を支える総合的な拠点をつくる
 - 医療・福祉の総合的な拠点の整備を検討する

方針2 気軽に外出したくなる環境を整える

- ①外出時に休憩できるスポットを充実させる
 - 気軽に立ち寄れる居場所を歩いていける範囲に確保する
 - ベンチやカフェなど、まちなかで気軽に飲食や休憩ができるスポットを増やす
 - 公園のトイレや休憩施設を使いやすくする
- ②まちなかを巡る歩行空間の魅力高める
 - さくら通りを中心に個性の違う各通りをつなぎ、歩いて回れる歩行ネットワークをつくる
 - 健康づくりの視点で歩いてまわられる環境を充実する
 - 多様な居場所を巡れるしかけでまちの回遊性を向上する
 - 地域資源を回って巡りたくなるストーリーやテーマ設定と情報発信、サインの充実を図り、地域内資源ネットワークを形成する
 - 公共交通や国立・谷保地域からの動線なども踏まえて、富士見台地域の回遊性のあり方を検討する
- ③だれもが気軽に外出できる移動の手段やしくみを整える
 - 居場所への移動を支える環境を整える
 - 自転車道のルールや交通マナー、交通安全の向上を図り、安全な歩行環境とする
 - 公共交通やモビリティの拡充を検討する

方針3 多様な人が暮らせる住まいづくりを進める

- ①国立富士見台団地を核として地域の暮らしの魅力高める
 - 団地を核として富士見台地域のにぎわいを創出する
 - 団地を若い世代や新たな居住者の住まいとして活用する
 - 団地に住み続けられる環境を検討する
 - 団地の行事を地域みんなで楽しめるしくみを検討する
- ②多様な住まい方が選択できるようにする
 - 学生、高齢者、外国人、子育て世代などのニーズにあった住まいづくりを検討する
 - シェアハウスなど、新たな住まい方のしくみを検討する
 - 複数世帯が居住できる住宅を誘導する

方針4 にぎわいの空間をつくる・活用する

- ①公共施設の再編にあわせてにぎわい創出を検討する
 - まちに開かれた公共施設のあり方を検討する
 - 多機能集約型の拠点や公共施設によりにぎわいを創出する
- ②にぎわいを創出する公共空間の活用を進める
 - 道路活用のイベントで楽しみごとをつくる
 - 公園を積極的に活用して活動の見える化をすることで多世代が足を運び、にぎわいを創出する
 - にぎわい創出するイベントの手段やしくみを工夫する
- ③商店街をにぎわいの場として多様な活用を進める
 - 商業に限らず他の要素を取り入れ、商店街の魅力をさらに高める
 - 商店街のお店を活用できるサービスや仕組みづくりを検討する
 - 子ども・子育て世代・シニア世代と連携して商店街を元気にすることでにぎわいづくりにつなげる
- ④にぎわいを維持・誘導するエリアとルールを検討する
 - 矢川駅・谷保駅と周辺地域が連動したにぎわいを誘導する
 - 公園および公園周辺ににぎわいを誘導する
 - 公園の特性にあわせた活用方法を工夫する
 - さらに魅力的な公園の使い方をみんなで検討する
 - にぎわいの適正な誘導を図るためのルールを検討する

方針5 富士見台地域ならではの環境・景観の魅力高める

- ①みどりの連続性を感じる空間づくりを進める
 - 団地の緑とオープンスペースを継承するために、市民みんなで楽しめる空間づくりや使い方を検討する
 - 団地の豊かな緑と街路樹のつながりをつくる
 - 富士見台地域の緑と谷保・多摩川・立川の緑を広域でネットワークさせる
- ②さくら通り沿道に魅力的なオープンスペースを確保する
 - さくら通り沿道など道路沿道にくつろげるオープンな空間を誘導する
 - さくら通りと公園の空間の一体性を高める
- ③富士見台地域の個性ある景観を生かす
 - 地形の豊かな起伏など富士見台地域の個性を活かす
 - 富士見台地域の街並みの魅力を高めるデザインに配慮する
 - 地域をめぐる資源として農のある景観を活用する

方針6 コミュニティづくりの担い手を育む

- ①顔の見えるコミュニティづくりを大切にする
 - 地域の見守り活動を推進する
 - 災害をみんなで乗り越える活動や仕組みを充実させる
- ②市民が場の運営に主体的に関われる仕組みを検討する
 - 居場所に多様な人が関われる運営の工夫をする
 - 高齢者が活躍できる機会を充実する
- ③市民活動を応援するコーディネーターを育成する
 - 高齢者が地域とつながる機会を増やす
 - 地域のつなぎ役（コーディネーター）を育成する
- ④子どもたちが地域で多様な経験を
する機会を増やす
 - 子どもたちの地域参加の場を充実させる